

講義名	経済情報処理			授業形態	
担当教員	森澤 龍也	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

現実の経済について論じるときには、単なる思いつきや現実の動きを無視した議論を避け、証拠（データや資料）に基づいて議論することが重要である。また、効果的な情報伝達（プレゼンテーション）を行うことで、伝えたい内容を相手に的確に伝えることが必要となる。この講義では、経済情報処理の内容を履修させ、PC教室での実習を通じて、経済分析および将来の実務に必要な情報処理能力の修得を目標とする。

到達目標

- (1) 表計算ソフト（エクセル）の応用的な操作方法（データ分析、関数貼り付けなど）を身につけることができるようになる。
- (2) 統計分析の基礎的な概念（記述統計量など）を習得することができるようになる。

提出課題

講義時間中に実習課題を提出する必要がある。また、講義期間中に中間確認演習を実施する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

「確認課題と解説」回において講評・解説を行う。

評価の基準

講義中課題：35%
 中間確認演習：30%
 定期試験または最終確認演習：35%
 欠席（確認未提出）・遅刻は減点対象である。
 現時点では、対面式講義を前提に予定を組んでいるが、今後の状況次第では定期試験の代わりに最終確認演習を実施することも考えている。この点については、状況判断の見通しがつき次第、Ryuka Portalの掲示にて連絡する。

履修にあたっての注意・助言他

PCの想定使用環境：Windows10PC・Office365（Windows向けのWord・Excel）使用にて講義を実施する予定である。履修希望者は、本講義を受講するまでに、上記と同等の端末・ソフト環境を準備しておくことが快適な学習環境として適していることを認識しておいてもらいたい。

経済情報処理 未履修者は、本講義の履修について再考することを推奨する。当科目は経済情報処理 が修得済みであることを前提として講義が行われる。十分なフォローはできない旨、十分に認識しておいてもらいたい。

経済情報処理 履修者のなかで経済情報処理 の内容理解が十分でない履修予定者は、本講義の履修について再考することを推奨する。当科目は経済情報処理 の講義内容を十分に理解していることを前提として講義が行われる。十分なフォローができない旨、十分に認識しておいてもらいたい。

当科目の受講にあたって、経済情報処理 を必ず事前に履修しておくように注意されたい。
 当科目は汎用言語科目であり、教室・設備の制約上、事前登録が必要な科目である。履修にあたっては十分に注意されたい。
 講義開始前に出席確認および教材ファイル配布をシステムにて行うので、講義開始時間前に入室し、開始時点で各自のPCが使用可能な状況しておく必要がある。遅刻者に対しては特に考慮すべき理由がない限り、教材を配布しないので、十分に注意されたい。また、USBメモリなどの保存用メディアを持参されたい。
 出席確認科目である。また、講義時間外に各自よく復習してほしい。
 講義中での私語は厳禁である。

教科書

・特に指定しない。

参考図書

・下記「その他」項目での記載内容を参照せよ。

その他

担当者作成の教材ファイルを配布する。
 参考文献（第3回）：森澤龍也（2015）『レクチャー&エクササイズ金融論』（新世社）
 この他の参考文献については講義中に適時、紹介する。

授業計画

- 1 経済情報処理 序論
- 2 参照機能の活用
- 3 参照機能の活用
- 4 確認課題と解説
- 5 ゴールシークの活用
- 6 確認課題と解説
- 7 中間確認演習
- 8 記述統計量の活用
- 9 確認課題と解説
- 10 Excel関数の活用
- 11 確認課題と解説
- 12 Excel関数の活用
- 13 確認課題と解説
- 14 中間確認演習
- 15 総復習課題の演習（定期試験の実施を見合わせる場合は最終確認演習を実施予定）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・予習 2時間/回×15回： 参考書や情報検索などによって今回の講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。
- ・復習 2時間/回×15回： 各回の課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、参考書の再読、講義ノートの整理に取り組み、今回の内容に関する理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

経済情報学科経済情報コース：
 DP（1）-との関連性：目標（1）-（2）を達成することで共通DPに貢献できる。
 DP（2）-との関連性：目標（1）-（2）を達成することで共通DPの「経済情報分析力」に貢献できる。
 経済情報学科情報システムコース：
 DP（1）-との関連性：目標（1）-（2）を達成することで共通DPに貢献できる。
 DP（3）-との関連性：情報システムの仕組みを直接の考察の対象とはしていないが「情報処理能力、問題解決のための応用力を身につける」ことに貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

適宜、質問・疑問点を募りながら、PC実習を行う。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

当科目は経済情報処理 が修得済みであることを前提として講義が行われる。
 当科目は経済学部経済情報学科経済情報コースの選択必修科目である。
 対面式講義として開講する予定である。（2022年2月15日現在）
 ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により上記の開講方式については変更の可能性があり、その際はRyuka Portalの掲示にて連絡するので、講義連絡を常に確認してもらいたい。また、開講方式変更の際のシラバスについては修正される可能性がある。